

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号

115

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が笑顔で主体的に、地域で生活できる力を高める。 ・一人一人の可能性を最大限伸ばし、生きる力を育て、社会に自立し、心身共に調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成する。
--------	--

評価する領域・分野	教育全般	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で教育活動の内容や時期を変更しながら対応している。 ・児童生徒の様子をもっと知りたいという保護者からの要望が強い。 ・外国籍児童生徒の保護者の中には連携の取り方が難しい場合がある。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・育てたい児童生徒像である「互いに尊重しあい、のびのびと夢に向かって学び続ける姿」の具現化を図る。 ・児童生徒の一人一人の発達段階や学習状況を的確に把握し、個に応じた指導の目標と手立てを明確化する。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会やネットワーク会議等を通して、外部関係者との連携を密にし、外部関係者との連携を密にし、外部評価を積極的に求め教育活動に反映する。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、関係機関との連携を図り、個別の指導計画等の適切な活用。 ・ICT機器を活用して、自分の考えや思いを表現したり仲間と共有したりできる授業実践に取り組む。 ・主任会を中心とした協力、相談体制づくり 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート及び生徒アンケート ・児童生徒の様子 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に研究授業を実施し実践集を作成した。 ・ホームページをリニューアルした。 ・東濃高校へ視察に行き、外国籍児童生徒の援助方法について研修を実施した。 ・弱視の児童生徒について個別支援を実施した。 ・働き方改革の取組として組織の見直しと業務の削減を図った。 	
評価の視点	評価	
①児童生徒の実態把握、学習課題の検討に個別の指導計画等を十分活用できたか。	A B C D	
②コロナ禍における教育活動の充実・ICTの活用ができたか。	A B C D	
③職員の共通理解、協力体制を図ることができたか。	A B C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のもと創意工夫して教育活動を実施できた。 ○児童生徒の実態把握に努め、情報共有しながら統一した指導に当たることができた。 ○タブレット等ICT機器を効果的に活用できた。 ○感染症対策、児童生徒の健康管理について保護者から理解を得られた。 ▲いじめ対策への取組など、個別の事例については家庭と連携できたが、学校全体で取組んでいる内容については保護者に周知が十分でなかった。 ▲外国籍児童生徒の保護者対応に課題を残した。 	A B C D	

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校メール等を利用し、丁寧で迅速な情報発信を心掛ける。 ・外国籍保護者への丁寧な対応を実施する。 ・外国籍児童生徒への日本語の学習援助を実施する。 ・弱視などの障がいによる児童生徒の個別支援の充実を図る。 ・働き方改革に向け、更なる業務の見直しを図る。 ・キャリアパスポートを利用し、自分で成長の過程を確認できるよう促す。 ・生徒会活動や資格取得等の特別活動を推進し、自己肯定感の育成に努める。
---------------	---

【 小学部 】

評価する領域・分野	教育全般
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧で迅速な情報提供（ホームページ・外国籍保護者への対応） ・コロナ禍での行事を工夫して実施 ・生徒支援の充実（外国籍児童への援助・障がいのよる個別支援） ・働き方改革への取り組み ・自己肯定感の育成（キャリアパスポートの活用等）
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の振り返りや授業等、教師間の情報交換を密にして授業実践を進める。 ・一人一人の「伝える力」の課題を明確にし、全ての学習場面で実践していく。 ・丈夫な体作り、健康の維持・増進が中学部・高等部での学習やその後の社会生活に生かされる視点を持ち、運動量を確保する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任会 学年会 教科会 ケース会議 チームスの活用 ・リズムランニング 散歩 「からだ」の時間 昼休みの活用
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、主任会を中心とした協力、相談体制づくり ・保護者・関係機関との連携と、個別の指導計画等の適切な活用 ・学習計画、評価、ICTの活用（授業での活用・情報共有）
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート及び職員アンケート ・児童の様子 ・学年会 小学部会
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムランニング、ダンス、散歩、外遊びなどを積極的に行った。 ・学年の児童がグループに分かれて学習する機会を持ち、担任以外の目で児童を見つめ、支援の仕方や成長を確認した。 ・学年をベースに教材研究や授業実践を行った。
評価の視点	評価
① 情報交換を密にしなが授業実践をすることができたか	Ⓐ B C D
② 一人一人の「伝える力」を育成する取り組みを行うことができたか	A Ⓑ C D
③ 丈夫な体作り、健康の維持・増進の視点をもって運動量の確保ができたか	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○学年・小学部職員と協力しながら児童に合わせた学習活動を行うことができた。 ○散歩やダンスなど体を動かす時間を必ずとり運動量を確保した。 ▲児童の発達段階だけでなく生活年齢に合わせた指導の認識の違いがあった。 	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・チームスの活用だけでなく、学年グループでの情報交換をすすめ指導に生かす。 ・地域の散歩コースの拡充などを行い、運動量を今以上に増やしていく。 ・児童の発達段階や生活年齢に合わせた指導を共通理解し、指導にあたる。

【 中学部 】

評価する領域・分野	教育全般
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧で迅速な情報提供（ホームページ・外国籍保護者への対応） ・コロナ禍での行事を工夫して実施 ・生徒支援の充実（外国籍児童への援助・障がいによる個別支援） ・働き方改革への取り組み ・自己肯定感の育成（キャリアパスポートの活用等） ・将来を見通した系統性のある指導目標や授業内容の設定。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が期待したり、もてる力を発揮したりする学習計画の立案。 ・日頃の振り返りや授業等、教師間の情報交換を密にして授業実践を進める。 ・家庭、医療等関係機関と連携し個に応じた生活習慣の形成を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、グループ主任を中心としたチーム体制 ・教務部、研究情報部、進路指導部、地域支援センター一部との連携 ・中学部会、学年会、教科担当者会、個別懇談会
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握、学習課題の明確化（教育課程、年計画見直し） ・学年会、主任会を中心とした協力、相談体制づくり ・保護者・関係機関との連携と、個別の指導計画等の適切な活用。 ・学習計画、評価、ICTの活用（授業での活用・情報共有）
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況、学習評価、キャリアパスポート ・連絡帳、懇談会での保護者からの意見や感想 ・学校アンケートおよび職員アンケートや意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・学年をベースに教材研究や授業実践を積み上げた。 ・保護者懇談、教員間で個別の指導計画の活用 ・タブレット端末（MetaMoJi、プログラミング学習）を活用した授業実践
評価の視点	評価
①生徒の実態に応じた課題や学習内容の計画、実践、評価ができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
②生徒一人一人の目標や持てる力が発揮できる授業づくりができたか。	<input checked="" type="radio"/> A B C D
③情報共有や協力体制を図りながら生徒指導ができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
成果・課題	総合評価
○生徒の段階や実態に応じて学習活動を工夫し授業の実践を行うことができた。 ○保護者、学校、関係機関と連携をとりながら生徒指導を行うことができた。 ▲多角的な視野から支援方法を検討することができる専門性の向上。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・コアティーチャーの活用や外部連携をさらに図り指導につなげる。 ・Teamsの活用と主任会等、職員間の情報交換を適宜行い指導、業務にあたる。 ・生徒の実態や課題を踏まえ、運動習慣や保健指導を含めた生活指導の充実を図る。

【 高等部 】

評価する領域・分野	教育全般
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧で迅速な情報提供（ホームページ・外国籍保護者への対応） ・コロナ禍での行事を工夫して実施 ・生徒支援の充実（外国籍児童への援助・障がいによる個別支援） ・働き方改革への取り組み ・自己肯定感の育成（キャリアパスポートの活用等）

今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 働くために必要な力の段階的な育成 生徒の卒業後の生活を想定した学習指導と生徒指導 情報交換を密にし、連携して個に応じた生徒対応ができる体制づくり
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任、類型主任を中心とした高等部全体の連携 校内分掌との連携 家庭、医療等関係機関との連携
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会を通した、個の特性と状況の把握 保護者、関係機関からの情報収集と、個別の指導計画等の適切な活用 授業や指導方法についての積極的な意見交換と研修
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子（出席状況、学習評価、キャリアパスポート） 生徒の進路決定状況 学校アンケートおよび職員アンケート、保護者からの意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から職員間の報告・連絡・相談を大切にし、生徒についての情報交換を積極的に行い、連携して対応にあたることができた。 各学年で授業研究や授業の振り返りを行い、改善を図った。また、来年度の新しい学習に向けての研修も行うことができた。 生徒の状況に合わせた丁寧な進路指導を行うことができた。
評価の視点	評価
①生徒の情報を共有し、連携して指導に当たることができたか。	Ⓐ B C D
②生徒が状況にあった進路目標を設定し、実現することができたか。	A Ⓑ C D
③積極的に教材研究や授業改善に取り組むことができたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
○生徒の特性や状況に合わせて、連携した生徒対応ができ、生徒の学習や生活状況の改善を図ることができた。 ▲一部の生徒については、粘り強く指導を続けているが、課題改善を図ることができなかった。	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活に向けた早期からの段階的な進路指導 新しい施設、設備を活用した指導体制の確立 指導力を高めるための、教員の更なる意識向上と積極的な自己研鑽

【 教務部 】

評価する領域・分野	「教務」「庶務」「学習指導」「教育環境」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標に共感を得て、児童生徒の可能性を伸ばす工夫がされている。 学習に合わせた教材教具の工夫と共に、学習内容や学習状況の丁寧な説明と参観の機会が必要。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 行事の早期計画と精選、業務分担の明確化、簡素化に努める。 学習指導要領を踏まえた個別の指導計画や教育活動の実践に生かす。 学習活動充実のための環境整備に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教務部会 教科会

目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の反省を踏まえ行事等の実施計画を早期に立案し、明確な業務分担のもと他分掌と連携を図る。 ・出席簿のデータ化等、業務の合理化及び精選と簡素化の提案。 ・会議・行事の精選。 ・新学習指導要領を踏まえた教育活動の充実と実践を推進する。 ・理学療法士、外部講師等、外部機関と連携した学習活動の計画と実施。
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・業務精選の実施にともなう評価 ・新学習指導要領を踏まえた各教科の目標及び学習内容表の作成
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応など感染状況を踏まえた行事計画を実施した。 ・会議の精選に加え、協議事項の簡潔な提案と連絡事項のチームスやグループウェア活用を行い、会議時間の削減を行った。 ・学習指導要領に基づいた各教科の目標や学習内容等を教科会で周知することに加え、キャリアパスポートを活用したキャリア教育の理解を推進した。 ・理学療法士や外部講師との事前の打ち合わせなどを丁寧に行うことで、充実した活動ができた。
評価の視点	評価
① 行事等の実施計画を早期に立案し、実施できたか。	A B C D
② 職員の業務の負担軽減ができたか。	A B C D
③ 新学習指導要領に基づいた個別の指導計画の作成及び教育実践ができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ対応を踏まえ計画的に行事等の計画立案実施できた。 ○会議の協議内容を精選したことで、会議の回数削減と時間の短縮につながった。 ○他分掌と協力して、キャリア教育を推進し、キャリアパスポートを学校全体で活用開始することができた。 	A B C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、会議、研修の精選について継続した検討。 ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進と情報交換及び改善。 ・出席簿業務の効率化と【特A】文書としての整合性保持の検討。 ・保存文書の的確な整理。

【 支援センター部 】

評価する領域・分野	「センター的機能」「地域連携」「校内支援」
現状及びアンケート の結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域の特別支援教育体制の推進に向けて、関係機関と連携し、地域に特別支援教育やセンター的機能について周知し、活用を促している。 ・校内支援体制充実のため、個別の教育支援計画の作成、必要な情報やアセスメントの提供、地域資源の周知等を行い、支援・指導を行っている。
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での研修を充実し、人的資源を活用した、より継続的、実践的な支援を提供する。 ・支援経過を確認しながら提供した支援の有効性について評価し、改善する。 ・児童生徒や保護者、担任の困りごとに寄り添い、支援が必要なケースを積極的に把握し、早期に対応する。 ・関係機関との連携を密にして、より迅速に適切な支援につなぐ。

重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能（相談支援、訪問支援、研修支援、情報提供） ・地域連携（地域支援会議、福祉事業所対応、個別の教育支援計画、交流及び共同学習） ・校内支援（「気にかけてほしい子」の情報共有、サポート会議、外部連携）
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でできる地域支援について検討・周知し、都度実施する。 ・他分掌と連携し、校内支援体制の整理し、役割分担を明確にする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援：関係機関との連携、園や学校等に還元度アンケートの実施 ・校内支援：支援・指導の助言・記録、進捗状況の確認や分掌反省の実施
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の就学や支援にかかわる指導・助言、公開講座（オンライン）の実施 ・ホームページ更新によるセンター的機能の情報発信や活用の充実 ・地域支援会議主催を自治体へ順次移行、校内支援の役割分担・経過共有
評価の視点	評価
①センター的機能を通して、地域の園や学校等に対して適切な支援ができたか。	Ⓐ B C D
②校内の児童生徒や保護者、担任の困りごとに寄り添い、適切な支援ができたか。	A Ⓑ C D
③他分掌と連携し、校内支援体制の整理・充実をすることができたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
○地域のニーズに応じて、特別支援教育体制への助言・指導、研修支援等ができた。 ▲整理した校内支援体制をもとに、支援・指導や他分掌との連携を強化する。	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・可茂教事や各教委と連携し、地域の特別支援教育体制の充実を図る。 ・新個別の教育支援計画をもとに、情報整理や支援の検討、引き継ぎをする。

【 生徒支援部 】

評価する領域・分野	「生徒指導」「教育相談」「通学指導」「特別活動」「人権教育」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性や思いやりの心を育むことができる環境が構築されている。 ・いじめ根絶、人権尊重の重視などの人権教育が適切に行われている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を見据え、挨拶や身だしなみ、規範意識などの育成を図る。 ・児童生徒、保護者、担任へ支援が必要なケースを把握し早期に対応する。 ・日常的な通学指導を行い、安全且つ安心して登下校できるようにする。 ・特別活動の充実を図り、児童生徒が主体的に取り組める環境を確立する。 ・自他の命を大切にできる児童生徒の育成を目指した人権教育を推進する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導、通学指導、特別活動、人権教育、教区相談と5チーム毎にリーダーを配置しチーム会を活用することで、系統的なマネージメントを図る。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・安全危機管理として不審者対応訓練、捜索時の総括 ・いじめ対策委員会、ケース会議、連携会議等の総括 ・全ての通学に関わる業務、交通安全教育の推進 ・児童生徒会、MS・MS J リーダーズ活動、部活動の運営、学校祭総括 ・いじめ防止と対応、人権に関わる授業や取組、各種委員会招集と開催
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全体を通して児童生徒の主体的な言動や生き生きとした姿 ・学校評価における、当校の生徒指導上の指導や支援に関する評価 ・いじめ防止等対策会議における、当校のいじめ対応等に関する評価

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導全般、各種マニュアル作成と職員周知、訓練等の実施 ・SCの活用と、いじめ認知事案における対策委員会の実施 ・SB運行計画作成と運行業務、交通安全指導と自力通学指導の実施 ・児童生徒会、委員会、集会、MSL（J）活動等の実施 ・人権教育と啓発取組の実施
評価の視点	評価
①生徒指導全般において組織で対応し、適切な指導や支援ができたか。	A B C D
②児童生徒が主体的に活動できる環境や活躍の場を確保できたか。	A B C D
③児童生徒の人権意識の向上といじめ重大事案に至らない日々の指導ができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○問題事案について、関係職員が情報交換を行い、迅速に対応することができた。 ○関係職員と連携して、滞りなくスクールバスを運行することができた。 ○人権教育を推進することで自己理解や、仲間を思いやる心が育成できた。 ▲年齢や発達段階にあった行事の計画と運営の見直し 	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての活動を通じ、児童生徒の自己肯定感を高める取組の充実を図る。 ・生徒支援部と各部の連携をより強化し、指導と支援を統括的に行う。 ・年間を通じた交通安全教育の推進と地域や関係機関との連携強化。 ・保護者へ「いじめ基本方針」周知を徹底し、理解と協力を図る。

【 研究情報部 】

評価する領域・分野	「情報管理」「情報推進」「研修推進」「研究推進」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に適した教材教具の準備など、今後一層、教師が授業や学習支援の力をつけていく必要がある。 ・学校ホームページを利用して、校内の活動や取り組みを、地域や保護者に発信していく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒ひとりひとりのキャリアを充実するための授業づくりに取り組む ・総合化された特別支援学校の意義や特色を生かし、障がい種ごとの専門性を高めるものと、障がい種を超えて総合的な課題に迫るものとの両面から研修の充実を図る ・教師誰もがICT機器を使えるように、ICT機器に触れる機会を増やす ・児童生徒の学習や生活に、タブレットを広く活用できるように支援する ・働き方改革の一助として、校務のICT活用を推進する
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会の運営 ・初任者研修推進委員会、情報教育推進委員会の運営 ・夏季研修会等、各研修会の運営
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の研究の日を実施（キャリア教育の観点から授業実践と授業づくり） ・新学習指導要領に基づく初任者指導の実施 ・公開講座、夏季研修会の計画と実施、各種研修案内等の情報配信 ・学年、部、分掌にICT担当者を配置し、月に1回の推進委員会を実施 ・情報機器管理の徹底と環境整備
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施 ・各推進委員会で評価、検討

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点から研究の日を計画し実践している。 ・新学習指導要領に基づく初任者指導を計画し実施している。 ・ICT や発達の視点から子供をとらえる研修を計画し、実施することができた。 ・校内に ICT 担当者を配置し、推進員会を実施するとともに、情報機器の整備を促進し、教師が ICT に触れる機会を増やしている。 ・PTA の意見も取り入れながら、HP のリニューアルをおこなった。
評価の視点	評価
① 校務の ICT 推進	A B C D
② 授業での ICT 活用	A B C D
③ キャリア教育の充実を目指した授業実践の推進	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○故障の対応、情報セキュリティの整理、Teams の活用など校務の ICT 化が進みつつある。</p> <p>○PTA と連携しながらホームページを活用した情報発信の基盤ができつつある。</p> <p>○グループごとに指導案作成・授業実践などを行い、実践集をまとめた。</p> <p>▲業務内容が多岐にわたるため、精選をして一つ一つの業務内容を明確にする。</p> <p>▲研修を精選する。授業実践を活発化させる。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直し、精選を行い、それぞれの業務内容を明確化する（業務内容の明確化、委員会や全体研修会の削減）。 ・県教委や管理職の指導のもと安全に ICT 機器を活用する。 ・児童生徒の学習をスムーズにするための ICT 機器の活用法についての提案・研修会を行う。 ・地域に発信できるような授業力アップに向けた校内研究（キャリア教育を視点とする）。

【 健康安全部 】

評価する領域・分野	「保健指導・健康教育」「給食指学」「体育指導」「特別活動」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防に係る、生活区域や動線の整理、各箇所の消毒を実施している。 ・健康チェックカードを活用した、本人及び家族の健康確認を実施している。 ・授業や学校行事等を参観する機会の有無又は、その実施方法について感染症対策を最優先にして対応していることに概ね保護者の理解を得ている。 ・感染症対策に加え、医療機関と常に連携を図って児童生徒の健康に気を配っていることに概ね保護者の理解を得ている。 ・児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応について概ね保護者の理解を得ている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に努め、児童生徒の心身の健康状態を把握し、個に応じた保健・体育指導等の充実を図る。 ・保護者や医療機関、教職員の連携を緊密にし、医療的ケア及び保健指導を実施する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭を中心とするコロナガードと保健主事、保健室、コロナ対策整備係が協力し、全職員の意識を高めることで学校全体の協力体制をつくり対応する。

目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のための健康確認及び消毒の実施や校内環境を整備するとともに、teams や校内放送を活用し、理解啓発を図る。 ・関係職員が適宜集まり、問題解決に向けた協議の場を設けることで、顔の見える関係づくりに取り組む。
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が大きなアクシデントなく、安心安全で健康に過ごすことができたか。 ・新型コロナウイルス感染症による学校でのクラスターを回避することができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・健康チェックカードの活用及び健康観察等に継続して取り組み、「学校にウイルスを持ち込ませない・拡がらせない」対策取り組んだ。 ・感染状況に対応しながら健診等を実施し、健康状態を把握した。 ・保健室・保護者・担任が連携して、安全に医療的ケアを実施した。 ・栄養教諭、アレルギー担当等と協力して食に関する諸課題に取り組むことができた。
評価の視点	評価
①感染症対策に努め、児童生徒の心身の健康状態を把握し、個に応じた保健・体育指導等の充実を図る。	A B C D
②保護者や医療機関、教職員の連携を緊密にし、医療的ケア及び保健指導を実施する。	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○継続して感染症対策に取り組むことで、学校生活において大規模な集団感染を防ぎ、学校教育を円滑に進めることができた。</p> <p>○関係職員で密に連携を図ることで、大きなアクシデントなく、安心安全に学校生活及び医療的ケアを実施することができた。</p> <p>▲新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえつつ、健康・食育・保健体育にかかわる指導の充実を図る。</p>	A B C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対応について、周知徹底を継続する。 ・健康、食育、保健体育（性に関する指導・プール含む）にかかわる指導の充実に向けて、分掌内で組織的に計画、実施を行う。

【 防災環境部 】

評価する領域・分野	「防災安全」「環境教育」「掲示教育」
現状及びアンケート の結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・組織運営及び対応方針を保護者へ丁寧に説明、周知していく。 ・地域、保護者協働の防災教育の企画の提案し実践に移す。 (PTA、地域と連携した安全教育の推進、企画の実施)
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検、校内美化、施設管理の徹底 ・防災教育の推進と日常から備える意識、視点の育成 ・防災マニュアル（非常変災時の対応を含む）の見直しと周知、組織連携
重点目標を達成する ための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・防災環境部（分掌会） ・防災対策組織

目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の周知と徹底。 ・各種業務の精査と報告様式等の修正。 ・命を守る訓練の具体的な提案と防災週間及び、学級指導の提案。 ・地域を踏まえた、具体的に災害を想定したマニュアルへの修正と組織体制の確認 ・清掃分担、清掃計画と整理整頓の具体的なルール化と提示
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理、安全指導體制が適切に行われたか。 ・具体的な目標、内容の提案と周知より適切な実践がなされたか。 ・業務改善に向けた業務整理、精査、組織体制がなされたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・各種用務様式の簡略化及び、データの整理、整備 ・命を守る訓練の計画的な実施及び、防災週間の設定 ・学校安全マニュアルの見直し修正（案）の作成
評価の視点	評価
①適切な安全点検、校内美化（清掃）、施設管理運営がなされたか。	A B C D
②計画的な訓練の実施と防災教育の適切な実施がなされたか。	A B C D
③具体的な災害を想定した組織体制（連携）及びマニュアルの修正がなされたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○分掌業務に関わる様式の簡略化、データ化し整理ができた。 ○命を守る訓練の計画的な実施及び、防災教育週間を実施し、推進ができた。 ○学校安全マニュアルの修正（案）の作成ができた。 ▲学校安全マニュアルの検証と組織への周知及び徹底に課題がある。 （防災マニュアル、避難所開設マニュアル） 	A B C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全マニュアルに基づく、実践及び検証を通して実効性を高める。 ・PTAと協力連携した防災の取組（コラボ企画）を計画し、実施する。 ・業務様式の運用と業務の適正な分担を図る。

【 進路支援部 】

評価する領域・分野	「進路学習」「進路支援」「進路研修」
現状及びアンケート の結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じたキャリア教育が実践されている。 ・地域企業の協力を得た進路学習の取り組みができています ・進路についての情報発信、啓発活動が不足している。
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や希望の実現に向け、小中高が系統的なキャリア教育の推進を図る。 ・主体的な進路決定及び生活を支える進路指導、就労支援体制の充実を図る。 ・児童生徒や保護者、職員への就労・進学に関する情報発信を強化する。
重点目標を達成する ための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有やキャリア教育の推進させるために分掌会を開く。 ・各学部、学年の進路支援部員からニーズを聞いたり、進路情報を発信したりする等で連携をとる。
目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの確立 ・進路の手引きの活用（懇談での使用等） ・作業学習の充実（授業の工夫、製品販売） ・啓発活動（進路だより、進路ガイダンス）、進路研修（職場見学、講話等） ・関係機関との連携（事業所、ナカポツ、ハローワーク、福祉課等） ・進路に関する情報収集（児童生徒の進路希望及び就労先開拓等）

達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の希望に沿った進路決定、進路実現 ・研修におけるアンケート
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアアップウィークの実施（年2回） ・現場実習、インターンシップ、職業体験等の実習を通じた学習 ・進路懇談の実施・進路だよりの発行（年2回）・新規の就労先の開拓 ・関係機関との連携（就労移行支援会議、アセスメントの調整等）
評価の視点	評価
①児童生徒の夢や希望の実現に向けた能力や態度を育てることができたか。	A B C D
②児童生徒や保護者目線に立った進路情報の発信をすることができたか。	A B C D
③学校全体での進路指導に関する知識を向上させることができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
○各段階や学年に応じた進路学習を行うことができた。 ▲啓発活動や進路相談において、情報の発信方法や周知の度合の検証について課題を残した。	A B C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育について、関係分掌と連携する。 ・必要な情報の調査、発信方法の工夫をする。 ・社会から求められる人材や能力を育成するための、指導内容及び方法の改善や情報提供を行う。 ・業務ごとにアンケート等を実施し、随時検証を行う。

【 渉外部 】

評価する領域・分野	「PTA」「関係諸機関連携」「福利厚生」「同窓会」
現状及びアンケート の結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートの結果、「学校は、保護者と一体になってPTA活動を進めている」の項目で、令和4年度は88%の理解を得ることができている。コロナ前の夏まつりのように、学校と保護者が一緒になっての活動がなくなったため、これ以上を求めることは困難である。しかし、コロナの影響で活動内容が変更される中、職員・保護者に対しては、取り組みについて丁寧でわかりやすく伝えていくことで、この評価を維持していきたい。
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会員による主体活動を援助する。 ・コロナ前後の実践分析を正確に伝授すると共に、状況に合わせた活動に努める。 ・学校行事、PTA行事に関わる地域への協力発信を行う。 ・保護者のニーズに合わせた校内(外)研修を発信する。
重点目標を達成する ための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会活動に担当職員を配属 ・引継ぎ書作成と次年度への活用 ・PTA本部役員と学校との連携のもと、地域に向けての発信 ・執行役員会での計画、実施、反省
目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の打ち合わせ(事前事後)、活動場所(消毒を含む)の確保、プリント作成の補助 ・業務にあたった内容を記録に残す。昨年度の書類を参考にした計画。 ・学校への協力体制がある外部団体への連絡。 ・主催となるメンバーからの提案、執行役員会で協議、活動計画、実践
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各会議（PTA執行役員会、分掌会）での反省、検討 ・PTA行事に参加した保護者からの感想内容の集計

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A正副会長・事務局による役員会事前打ち合わせの実施。各委員長と担当職員が協議。 ・ コロナ禍での P T A行事(活動)を“できる形”になるよう協議、計画。 ・ 卒業生(卒業した保護者)、各事業所へ協力依頼の配信 ・ 「部ごとの交流会」「花総会(全校対象)」など、保護者に交流の場を提供できる計画、補助。
評価の視点	評価
① P T Aの各委員長を支え、保護者が主体的に動ける援助ができたか。	A B C D
② 昨年度の引継ぎ書類を活かしたか。新たに取り組んだ内容を引継ぎ内容として記録に残せたか。	A B C D
③ 外部の関係諸機関へ、校内状況の伝達や協力依頼の配信ができたか。	A B C D
④ 保護者のニーズをもとに、コロナ禍を考慮した計画、実践ができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 正副会長が事前にまとめた提案が多くあったことで、各委員長がスムーズに活動に取り組むことができ、活気ある P T A活動が実施できた。担当職員が各委員長の相談役になることができた。 ○ P T A行事は、管理職と何度も協議を重ねて新計画を多く試みたことで、来年度の選択肢を増やすことができた。 ▲ 各委員会のような小規模の活動も、感染症対策のもと実施できていくとよい。 ○ P T A行事(進路研修会)の計画に、執行役員と他分掌とが連携し、講演の依頼ができた。 ○ 保護者が語れる場の提供や、保護者からの要望を計画して講演会を計画・実施することができた。 	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内運営の係分担(窓口)の工夫 ←スムーズな運営のため、棟ごとに設置 ・ 正副会長・事務局による事前打ち合わせ ←コロナ禍での可能な行事(活動)の協議 ・ P T A組織、活動曜日の検討 ←世帯数、授業協力についての検討 ・ P T A活動協力者(LINE、事業所等)への対応 ←学校(窓口)の余裕をもった対応

学校関係者評価 (令和5年3月3日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページをリニューアルするなど、情報発信に努めているが、今後、外国籍児童生徒や保護者へアプローチするためにも、外国語対応ができるとよいのではないかな。 ○ 企業へ勤める時のためにも、I C T機器を取り入れた学習が充実してきていることはありがたい。また、企業では業務でスマートフォンを利用する機会が増えている。I C T機器とスマートフォンを関連付けた取組ができるとよい。 ○ 世間ではスクールバスの事故が多くあった。添乗員2名を配置し、乗降時及びバス収納時に確認をするなど、徹底した安全対策に心掛けている。今後も継続していただきたい。 ○ きめ細かい進路支援を行っていただいている。卒業後の生活の安定のためにも、居住地の関係機関と連携した就労支援会議は重要である。 ○ 保護者として、先生方が児童生徒のために一生懸命取り組んでいただき感謝している。P T A活動で来校した際、児童生徒の様子を見る機会が多くあるが、日々の成長が感じられる。 ○ 保護者が安心できると子供たちも安心できる。一層、保護者との連携を強化していただきたい。
--